

考古学A 高倉 洋彰	履修年次	クラス	単位	学期
	2-4		2/4	前期/通年
備考： 考古学				

〔講義の概要〕

授業の到達目標及びテーマ： 中国に源をもつ水稲耕作文化体系の伝播にはじまる古代日本における農耕社会の成立を概観し、考古学という学問の考え方と方法を理解させる。

テーマ 農耕社会の成立

授業の概要： 等質的な社会であった縄文時代社会に、朝鮮半島との交流を通じて水稲耕作の技術とそれにともなう文化体系が日本列島に伝播してくるが、この新たな文化は古代日本に非等質的な社会をもたらした。近年の発掘調査からもたらされる多くの事実は弥生時代像を大きく塗り替えている。そこで、農耕社会の成立がもたらした日本の基盤を構築した弥生時代の大きな変革を、考古学による解明の方法を通じて理解できるよう、授業する。この授業では、弥生時代像を解明していく考古資料の扱い方を通して、学問の面白さ楽しさに触れてみることにする。

準備学習等についての具体的な指示： 予習によってテキストの内容を理解しておく。日本語のテキストであるから油断するが、文章に書いている語句・単語には深い内容があり、文字からだけでは理解できないものが多い。テキストを見るのではなく、読みかつ吟味しておくことが大切である。

授業計画：

第1回	移住から定住へ	テキストページ 2～36
第2回	集落と相互の交流	37～50
第3回	初めに板付ありき	52～58
第4回	米はどこから来たか	58～69
第5回	生業の複合性	69～79
第6回	大陸から来た要素	82～88
第7回	北部九州弥生社会の成長	88～107
第8回	近畿弥生社会の成長	107～119
第9回	中部・関東弥生社会の成長	120～134
第10回	卓越した漁撈の民	136～148
第11回	サンゴ礁の民	148～155
第12回	朝鮮半島と東アジア	155～163
第13回	金印が伝える世界	166～181
第14回	『魏志』倭人伝が伝える世界	194～212
第15回	考古学がみる「邪馬台国」	194～212

〔テキスト〕

石川日出志『農耕社会の成立』岩波新書1271、2010年

〔参考書等〕

その都度関連する論文や資料を適宜コピーし配布する。

〔成績評価の方法〕

学期末に実施する筆記試験の成績（60％）、授業参加への積極性（30％）、受講態度（10％）の割合で評価する。

。

〔履修上の注意〕

授業に対する積極性が必要。欠席に対しては厳しく対応する。